



地域防災に

今後の防災対策は地域住民が協力し守る

こんだたかし 権田孝史 議員

日頃の備え

自然災害から身を守る日頃の準備・対策

ほすみしゅうへい 保泉周平 議員

情報確認

第1に情報 第2に確認、早めの行動

おおきたひさかつ 大北久勝 議員

教訓に学べ

日頃より自宅と地区の防災状況を確認

かさほらのりお 笠原則夫 議員

自らで守る

初の指定避難所が開設。躊躇せず避難を

なかしまふみお 中嶋文雄 議員

早い決断!

早すぎる避難行動で、損をすることはない

よしざわやすひろ 吉澤康広 議員

備蓄と避難

3日分の水と食料の備蓄と避難先確認を

おおさわ ひろし 大澤 博 議員

防災グッズ

家族全員が、防災グッズの用意と確認を

つぐいやすお 津久井康雄 議員

イツモ防災

あなたのイツモがモシモを変える

すずきえいこ 鈴木詠子 議員

議員全員で考えるシリーズ 第3弾!

「防災、大切なこと」

命をつなぐ

東日本大震災で生死を分けた判断力

おかもとやすあき 岡本安明 議員

「無投票、私の思い (No.93)」、
「決算、あなたは誰に共感しますか? (No.94)」
に続き、今回は「防災」について一言。

脱・想定外

「その時どうする」を『今』考えておく

みねざしかつあき 峯岸克明 議員

「議員全員で考えるシリーズ」

No.93 No.94

早めの避難

自分の命を最優先に、避難行動は早めに

さとうりみ 佐藤理美 議員

あ!! 避難袋

災害・地震はいつ起こるか… 備えと点検!

いなやまよしふみ 稲山良文 議員

自己判断力

確かな情報と避難への判断力が命を守る

はらくち たかし 原口 孝 議員

早めの情報

火元、戸締り、防災グッズ、備えは万全に

たもがみせつこ 田母神節子 議員

命を優先に

備えあれば憂いなし

よしだまさみ 吉田正美 議員

あなたならどうする? 「自分の守り方」

ギカイの視点

最善の選択

ができるのは

あなた自身

「在宅避難」という選択肢も

水害の避難は、指定された避難場所へ行く『水平避難』と、浸水が始まるなどして緊急性のある場合、自宅の2階などに移動する『垂直避難』があります。

避難所は収容人数にも限りがあり、環境の変化で体調を崩す方もいます。事前に自宅での備蓄をととのえ、在宅での避難も選択肢に入れることが大切です(自宅の安全対策と、食料品や日用品などは最低でも3日間、できれば7日間の備蓄が推奨されています)。

行政だけに頼らない主体的な備えと避難行動を。
自分と家族の命を守るため、最善の選択ができるのは「あなた自身」です。



茅ヶ崎市地域防災計画在宅避難のススメ(動画)

「聞えない!」そんなとき

電話で聞ける防災行政無線

0120-0481-392

Case.19 子どもから若者世代、高齢者まで地域ぐるみで防災訓練を実施。末野2区の取り組み

「訓練に終わりは無い」
～みんなの知恵、集めよう 共有しよう・続けていこう～



炊き出しは、子どもも楽しんで参加しています。おいしく炊けますよ!

「自主防災リーダー養成講座も受講しました。実践が大事です」
たじまえいこ 田島英子さん



いざというとき使えるように

「備蓄倉庫のものは、訓練のときに実際に使っています」
いづか友芳さん



これが「災害時協力井戸」

「訓練時に井戸の場所を皆さんに確認してもらい、実際にお湯を沸かして試飲しました」
あびらひでお 浅見英男さん

なんとと言っても、日頃からの地区内の連携が大事ですよ

「訓練では、家庭の備蓄品のチェックもします。中には手づくり簡易トイレもあります。今後は、各家庭で不要になった毛布がないか呼びかけて、区の備蓄毛布にしようと思っています」
すずきとしひろ 鈴木敏之さん

ご存じですか? 「災害時協力井戸」
町では災害時の断水に備え、生活用水を無償で提供していただける井戸を「災害時協力井戸」として登録(2020.1.1現在、260カ所)。各区の自主防災組織と情報共有しています。

Q 家族以外で、災害時に頼りになると思う人はだれですか?



その他: 11人 (地区役員・親戚・消防団・民生委員など)

顔の見える近くの人が助け合う

近助力

いざという時は、家族や向こう三軒両隣など、近くにいる人が頼りになります。地域が皆で助け合う「共助」とともに、顔の見える近くの人が助け合う「近助」の支え合いが不可欠。言わば「近所=近助」。「いざという時」を意識した、日ごろからの「ご近助力」の構築を。

ギカイの視点



徹底取材 220人

Case.20 地域防災のカナメ 防災、最前線の声

今、話し合っておくことが大切

寄居町消防団長 岡安 徹さん(録形)

寄居町における大災害。無いことが一番ですが、万が一、そのような事態に直面したら……。

災害救助のスペシャリストである消防団員の人数が足りません。我々、消防団員は153人いますが、技術が足りません。だからこそ、本業の仕事を持ちながらも、少しずつ訓練を重ねています。訓練していかないことは、いざという時にはできないからです。

町の職員も限られた人数で、何もかも対応しきれないでしょう。もちろん、我々消防団員は、常にベストを尽くします。

そこで、皆さんもぜひ考えてください。万が一の時、自分は何をすればいいのかを!

「19歳の時、近所の先輩に勧められて入団しました。団員歴37年目。副団長を12年務めた後、昨年4月から消防団長。信条は「好きこそものの上手なれ」です」